

世界史通信 2 ～イタリア旅行記～ featuring the cities of medieval period of Europa (中世 ver)



Ciao !

Buon giorno ! イタリアからこんにちは。
新型コロナウイルスの早期終息を切に願い、前世界史通信でイタリアに思いをはせていると、イタリア紀行を執筆したくなりました。イタリアは北から南まで、魅力的な都市が盛りだくさん。歴史を学習して旅行するとさらに楽しみが増します。ではイタリア紀行、プレーゴ!

Verona (ヴェローナ)

古代・中世のイタリアを感じられるこじんまりしたかわいらしい街。ここヴェローナには『ロミオとジュリエット』のジュリエットの家と言われている建物があり、観光地になっている。



その家の中庭にはジュリエットの銅像が建っているのだが…ジュリエットの右胸をタッチすると幸せになれるらしく、嬉しげにさわる私。それにしても、観光客に右胸を触られ続けるジュリエット像、というのもいかなものなのでしょうか。



この街には古代ローマ時代の円形闘技場も残っています。

Assisi (アッシジ)

フランチェスコ修道会を創始したといわれる聖人フランチェスコの教会堂である、「聖フランチェスコ聖堂」がある小さな街。この街に足を踏み入れたとき、わけもなく涙がでてきた。(…ただの情緒不安定とか言わないで。) 私、前世はフランチェスコとなんらかの関係があったのではないかと、一躍聖フランチェスコが気になる存在に。自分へのお土産として聖フランチェスコのロケットペンダント(わかりますか?)を購入。



私とガイドさんとモテる友人(白石麻衣似)

聖フランチェスコです



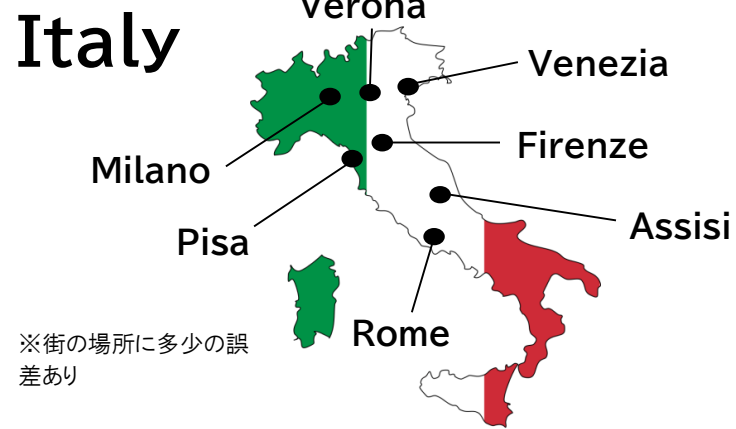
Milano (ミラノ)

ミラノコレクションでもおなじみのファッションの街。ハイブランドの本店や手頃でハイセンスなお店がいっぱい。街並みと買い物を楽しました。



ミラノ大聖堂にて。若杉こっち見んな

そしてミラノといえば、ミラノ大聖堂! 立派なゴシック建築の教会堂です。空へ高く伸びる尖塔が美しく、建設者や当時の人々の「神に近づきたい」という想いが感じられます。細かな装飾と荘厳なたたずまいに心動かされます。尖塔の上には聖人の像が! いつかは私も聖人として尖塔のてっぺんとつたる! と決意。



※街の場所に多少の誤差あり

Firenze (フィレンツェ)

「花の都」フィレンツェ。街のシンボルであるサンタ=マリア聖堂にのぼると、赤い屋根のフィレンツェの街並みを一望できる。中世の終わりをつげる文化活動、ルネサンスが花開いた街フィレンツェには「ウフィツィ美術館」という美術館があり、ルネサンス時代の美術品が多数収蔵されております。かの、ボッティチェリの『ヴィーナス誕生』『春』などがどどーんとあります! 圧巻です。

フィレンツェ市の市章の柄が入った、いけてるネクタイを、当時友達以上恋人未満の関係だった人物(今は夫)にお土産として購入。



フィレンツェ市庁舎前のダヴィデ像レプリカ



Pisa (ピサ)

中世の時代、東方貿易で繁栄した商業都市。現在は人口 10 万人ほどで、とにかくピサ大聖堂が1番の観光スポット。ここにかの「ピサの斜塔」があり、この塔は大聖堂に付属する鐘楼です。斜塔はのぼることができ、斜塔はけっこうかたむいていました、そりゃ斜塔ですものね。

斜塔の上から聖堂を見下ろす、の写真 →

ロマネスク様式の重厚な教会堂でした。



Venezia (ヴェネツィア)

水の都ヴェネツィア。中世ヨーロッパにおいて東方貿易で繁栄し、その経済力を背景に自治都市(コムーネ)として大きな勢力となった。ヴェネツィアは干潟につくられた街で、街の建造物を支える基礎として、丸太が1億本以上打ち込まれているらしい。街中を運河が縦横無尽にめぐっている。街の中心にはサン=マルコ聖堂がヴェネツィアのシンボリックな存在としてそびえ立っている。自分へのお土産としてヴェネツィア名物の仮面を購入したが、これまでに1度しか使用していない。

ゴンドラに乗って運河めぐりができます。不愛想なお兄さんが漕いでくださいました。運河の水質は良くなかったです。



「日本人はイタリアに行ったらモテる」と聞いてたんですよ。ええ。それ言われると期待するじゃないですかイタリアに。しかし、日本でモテる友人はイタリアでもモテ、日本でモテない私はイタリアでもモテなかった。美人はいいねえ。

早くから中央集権化をすすめたイギリスやフランスとは違い、イタリアは 1861 年の国家統一まで分権的でした。それぞれの小国家で中心都市が発展していた歴史ゆえに、イタリア半島北から南まで、特色ある都市が盛りだくさんなのではないでしょうか。日本にいると根暗でシャイで内に秘めたパッションを解放できない陰鬱な私ですが、イタリアではカラッと陽気な空気に誘われ、いつもより3割増しくらい陽気に過ごすことができました。ごはんもおいしかったです。日々の抑圧状態から解放されるイタリア、是非また行きたいです。それでは末筆ながら、舟入高校の皆さんの今後のますますのご活躍を祈っています。Grazie! Noriko Wakasugi